



炬火ランナーユニフォーム  
(昭和49年茨城国体当時)

昭和49年の茨城国体で炬火ランナーが  
走った際、実際に着用したユニフォーム。  
(秋山先生提供)



炬火トーチ

県の花であるバラをモチーフに制作。ホルダー中心部にバラの花を、ふちには県内5地域を模したいばらの装飾をあしらひ、未来に向かって羽ばたく茨城の姿を表現しています。

【長さ：764mm／重さ：約770g】



炬火受皿

茨城県の伝統工芸である笠間焼で製作。茶系の色を基本に、茨城の紺碧の海を表すブルーをアクセントに加え、豊かな自然を表現しています。

【高さ：約35cm／直径：約38.4cm  
／重さ：約7kg】



秋山 昌史先生

「すごく大変だったけど、火がついてよかった」と安堵の笑みを浮かべました。  
**次代へつなぐ**  
5・6年生の児童17人が炬火採火式に参加した富士見ヶ丘小学校。採火式終了後、一緒に火起こしをした秋山昌史先生が児童たちに向けてこう語りかけていました。「この経験をいつか、皆さんが大きくなったときに子どもたちに伝えてください。みんなで一生懸命、起こした火が茨城国体の火になったんだよって」。

実は秋山先生は、昭和49年開催の茨城国体で炬火ランナーを務めた一人。「先生は今こうしてみんなに伝えました。次は皆さんの番。次に茨城で国体が開かれるときは、きっとみんなも先生くらいの年齢になっているかな」。

市内すべての小学校で炬火採火式を終えたあとは、8月3日(土)に開催の「みらいフェスタ」で12校分の炬火を集め、ひとつにする集火式を行います。その後、「つくばみらい市の炬火」として茨城国体の総合開会式に持つていき、44市町村の「炬火」がひとつになり、炬火台に灯されることとなります。



①②：富士見ヶ丘小学校での採火式。火起こしが成功するたびに拍手が起きました／③④：東小学校運動会での採火式。皆で力を合わせて取り組みました／⑤⑥：三島小学校運動会での採火式。三島小と東小では、炬火リレーも行いました



# 45年の歳月を経て、再び灯された炎

谷井田小学校での炬火採火式

**茨** 城国体の炬火採火式が市立小学校で行われました。児童たちは「マイギリ式」と呼ばれる発火法で火起こしに挑戦。「マイギリ式」は、木と木がこすれ合う回転摩擦を利用した発火方法で、棒に貫通させた横木を上下させると、横木に渡したヒモが支柱に巻き付き、支柱を回転させます。それをいきおいよく繰り返し返すことで、火種がきます。児童たちは初めはうまくできずに四苦八苦。「バランスを保ちながらまっすぐに上下させるのが難しい」。ところが、繰り返し返すうちにコツをつかむと、タイミングよくリズムカルに横木を上下させることができるようになりました。「いいよいよ、その調子！」と励まし合いながら、懸命に横木を上下に動かします。次第に支柱が回転する摩擦で、下に敷いた板から煙が上がり出します。「もうちょっとだよ！」。細かった煙が太くなり、黒い灰のような火種ができあがりました。できた火種を急いで麻で包み、空気を送り込んで火を大きくすれば火起こしの成功です。火起こしを終えた児童たちは



▶マイギリ式火起こしを体験する児童たち(谷井田小学校で)

## きよか 炬火

炬火とは、オリンピックでいう聖火にあたります。県内の市町村でつくられた炬火は、メイン会場の笠松運動公園でひとつに合わさり、大会の間、選手を見守る火となります。

